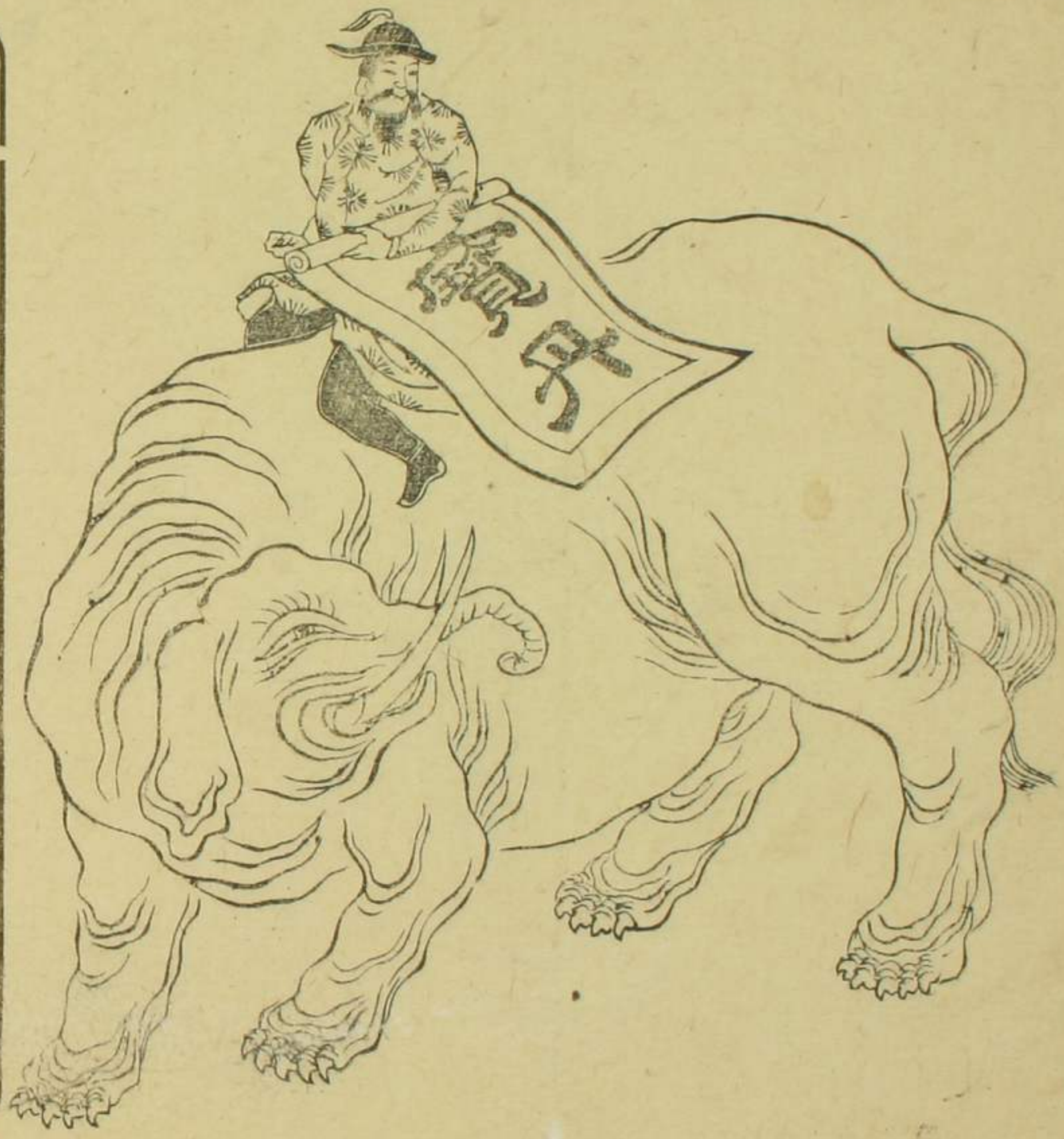




起死 回生  
**寶丹**  
 五分鋤入定價金六錢二厘五毛  
 一匁二分入同 拾二錢五厘  
 二匁二分入同 二拾五錢



服方概畧記

一 平常よりぞん用するハ朝夜三三度小豆の大ききつ服してより一匁の  
 ちちきつはりとして餅くもろくの邪氣をまじひたり疲のまのり  
 せひび 凡時氣のあきと欠或ハあつちまうりたりとくるとき或  
 炎暑の途中或ハえやう疫ある家といつくと飲るときハ別々怠りな  
 く度々用てよる

一 此寶丹一切のきやう病ハ奇功ある事多し

一 旅行ふねのり此もハ勿論或ハ軍陣練兵等のきり必是を時時服  
 す一たとい風土の異なり地といつと水あつとすハ中暑とくらへ等  
 のうせひぢ

一 ちちり病及んくらんて吐瀉一あるもの一度二三分冷水にて用ひあ  
 たりて心氣を安んずる事一二時間たつとらる一必全身あたま  
 て汗をもらハ小便運て治す右もきけりき病にて度用て功あきよハ三四度  
 たてつ用也一如此をく此薬用やう者ハ症癘をもちず一々容易一命  
 を救ふを心得べ一一切の食傷或ハけりてあつちまもあつちまも  
 大よとくみたへびとくこれ前のおく用やれハ吐すべき吐一とく  
 すまきいたて速く治す

一 氣附の妙薬やう事此寶丹よるハ一たとい手足ひあつちまも  
 目ハ三分冷水にて用やれ速く効を得べ

一 氣のふききめちちひのたんせだめりてあつちまもあつちまも  
 〇まなくき一たみ〇あつちまも〇まなくき一〇まなくき〇酒の多し

一 右の諸病ハ目ハ二分冷水にて用やれ重病ハ向三度たてつ用也一  
 一虫病よるとのうけいす一とくろりれ又ハはよの外へぬり暫時心氣と  
 をあつちまも速く治す

一 口ねりあつちまも毎夜ね一か或ハ常よとくみてよ

一 毒出のさうりたり又ハけものつみとく等何せしつと又ハ水にて煉つけ  
 鳥けその一切の病ひ一用て大効あり 音せいと出すよハぬき湯  
 一て度々用也一

一 按てよ此寶丹旅行遠出の節及或ハ遊軍此席一とくよも必懐  
 中ふ備て尤貴重を得也一實よされ濟世此良劑と云べき也

明治七年 甲戌十月

東弘軒

